

電報新聞

丑とも聞散さるる職工等ハ東京より職工を押し寄せ  
中山丸の升船して下單機西下して其の木丸が工場内にて下單機  
本邦職工總計百廿一各機夫を令じて昨二百名である。

木が東京側の下單機千名職工を十機各に下單機を令じてある。其  
この職工が二交升十二日間作業を開放し職工を解雇して其の  
その本會々關東震災の需製品の需要増進し作業を升を減するに至  
爾來業務不振の爲めに木丸が職工の請率解雇の意を令じて  
と利心くおさむべきのである。

この工機監督として來升して其の職工の請率解雇の意を令じて  
東京市、中山登丸の請負をして其の職工を解雇して其の木三浪丸  
前丸が販賣購買の關する指針を令じて其の職工を解雇して其の  
其の職工を解雇して其の職工を解雇して其の職工を解雇して其の

財團法人協調會大阪支所

た結果佐々木氏は從來の工場責任者にして作業上假疵の行爲有  
れば其権限を利用し直ちに解雇し西下職工は東京に於ける以上  
の賃銀をも得る様務めらるゝ方針なる事西下職工の口より流布  
せられ一般職工は檜村工場長單獨の時代に於て決してかゝる憂  
の無かりし事を省みて多少不安の念を抱いて居つた。

然るに本月八日工場責任者の一人大海鶴松なる職工は長期の病  
氣を押し夜業に就業中睡眠せし處を會々前記佐々木氏に發見せ  
られ他職工の辯解を聽かず遂に解雇した、全職工は病氣中の大  
海が過激なる十二時間の夜業に不堪睡眠せしを只一回の此小事  
の爲解雇するは無情にして西下職工より流布せし説もあながち  
虚ならずし傍々佐々木氏來任以來の工場内の空氣靜穩を缺く  
事、金錢上の問題に於ても種々の不都合あることを併せ遂に工  
場監督佐々木氏の排斥を決議したのである。

事情右の如くなるが檜村氏は佐々木來任以來工場内の實権は全

財團法人協調會大阪支所